第3種郵便物認可　（日刊）　新　潟

動物の診察室から

○67○

3本の脚で

骨肉腫 早めの手術決断

暮れも押し迫った昨年末の12月28日、アイリッシュウルフハウンドの後ろ足を、股関節から切除する、断脚手術を行いました。

その子の名前は「小梅ちゃん」。私の犬です。

小梅は12月に入り、軽く足を引きずって歩く跛行が始まりました。家の中で、ダックスとチワワと騒いでいるため、ときどき跛行をすることがありました。でも今回は症状が進み、超大型犬では骨の腫瘍が多いため嫌な予感がしていました。そして、エックス線検査をすると、やはり骨の腫瘍の可能性が高かったのです。

骨の腫瘍はかなり痛みがあるために、小梅には、麻薬のパッチを張りました。そうすると1週間薬が効いて痛みを抑えられます。しかし、だいぶ痛みがある様子で、立ち上がるときにはつらそうでした。

そして、全身麻酔下で、CT撮影と骨のバイオプシーを行い、骨の組織を病理検査に出しました。病理検査の結果が出たのが8日後の27日、診断名は「骨肉腫」。そして、翌日断脚手術になったのです。

犬の骨肉腫は、大型犬に多く7歳以降に発症することが多い病気です。とても痛みが強いために、四肢の骨肉腫は痛みを取る目的と、早期に断脚をするとその後の生存率が上がるので、診断がついたらすぐに手術をした方がよいとされています。そして抗がん剤の投与です。

小梅は大きい犬ですがとても甘えん坊です。手術の後すぐに目が覚めるのですが、私にすり寄って、「お父さん、私どうしたの、く～ん、く～ん」と泣いていました。麻薬以外の痛み止めも点滴し、少し眠れるような処置をして、私は朝方まで小梅に添い寝をしていました。

翌朝は、骨の痛みがなくなったため食欲もあり、食べたことのないポテトを、1本ずつポリポリとおいしそうに食べました。

犬の骨肉腫は、早期に断脚手術を行い抗がん剤の治療を行っても、1年後の生存率は35％です。超大型犬だけですと、もっと低い生存率になります。小梅は自分の命の短さを知りません。来年のお正月を迎えることは難しいと思います。

小梅はまだ4歳半です、そして、小梅の血液は多くの犬の命を救ってきました。

大みそかの午後、小梅の1回目の抗がん剤の点滴が始まりました。これから3週間に一度の抗がん剤治療です。難しい病気ですが、今まで助けた犬たちが、今度はみんなでよいしょよいしょと小梅を持ち上げてくれるでしょう。小梅、がんばろうね。そして、暖かくなったら、大好きな鳥屋野潟公園へ行って、3本の脚で散歩しようね。

無事に手術が終わった小梅ちゃん

草村　正人（獣医師・新潟市）

＝第2・4木曜掲載＝

くらし